

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500702		
法人名	社会福祉法人 サン・ビジョン		
事業所名	グループホーム ジョイフル各務原		
所在地	岐阜県各務原市鷺沼小伊木町3丁目170番地1		
自己評価作成日	令和 1年 8月 8日	評価結果市町村受理日	令和 1年 12月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和 1年 9月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ペランダから臨む犬山城や木曾川、リビング目の伊木山など四季折々の景観があり、自然に恵まれた開放感ある環境の中、併設施設である特養やデイサービスなどと連携しながら、地域社会との継続的な関係を築いています。利用者の状態や趣向に合わせて、できることややりたいことに着目し、職員が気付ける力を養いながら一人ひとりに生活が活性化するように支援しています。「笑顔」「思いやり」「チームワーク」をモットーに士気を高め合い、利用者の生活リズムに応じたサービス提供に努め、一人ひとりが張り合いや自信、楽しみを持って生活意欲を高めて頂けるようにサービスの充実を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは法人が有する複合施設の一つという強みを活かし、他施設である特別養護老人ホームとの合同行事や職員間での情報共有等の業務が連携関係を密に行われている。また、日々のケアにおいても、利用者のエンパワメントを高めるべく、本人ができること、やりたいことを大切に支援に取り組んでいる。それが特に感じられたのは、訪問の際の昼食時、職員の声かけに、にこやかに配膳等の準備や片付けを手伝っていたり、利用者や職員が食卓を囲み、食事の内容やテレビの番組の話題等を語り合いながら、食事を楽しんでいる等、利用者の生き生きした姿や家庭さながらの光景を見ることができたからである。また、日常の会話の中から、その人らしい会話や言葉を「つぶやき」として拾い上げ、職員間で情報共有することで、その人らしい生活支援に努めている。地域との関係においては、長年に渡り、清掃活動や運動会に利用者と共に参加する等、地域との交流に積極的な取り組みを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢者が中重度の要介護状態となっても、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続できるように理念を共有し、毎日の支援を行っている。事業所での憲章もあり、年度毎に見直しを行っている。	理念や職種ごとの役割は職員手帳に記載され、職員への周知が図られている。事業所の憲章については、職員アンケートや個人面談での聞き取りにより、毎年見直しを行い、今年度は特に「思いやり」について職員の意識を高めるべく、取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	認知症カフェの参加や地域の清掃活動、季節の行事(花見)等を通して、地域との繋がりを確保している。	定期的な地域の清掃活動に利用者や職員が参加している。春の花見や秋の市民運動会には、地域からのお誘いをいただき、参加している。自治会役員の交代があっても引継ぎをしていただく等、地域との馴染みの関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭や秋祭りなど、施設の行事に地域の方を招き、地域に開かれた事業所であることを示しながら理解を得られるようにしている。実習生やボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1度会議を開催し、事業所の取り組み状況や満足度調査結果を報告している。そういった中で参加者から得た助言は共有し、サービス向上に活かすよう努めている。	面会時等の機会を捉えて会議への出席を依頼することで、多くの家族の参加をいただいている。会議では、運営状況の報告や意見交換を行っている。席上で、地域の役員等から建設的な意見が毎回出され、ホームの運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	併設事業所である地域包括支援センターとも情報交換しながら、随時相談できる関係を築いている。資料提出や介護保険更新手続きの際には、可能な限り利用者を同伴して市の窓口へ出向いている。	運営推進会議への案内や事故報告等の状況報告は市の窓口へ出向くようにし、顔の見える関係づくりに努めている。わからない事は電話だけでなくメールも活用し、気軽に問い合わせる事ができ、助言を得る等協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は法人として、行わない指針を掲げている。毎月身体拘束に関する委員会も開催しており、グレーゾーンの認識も含め、利用者様の安全に努め、身体拘束を行わないケアを実践している。	委員会は全体会議に組み込まれ、毎月検討し、議事録等の回覧や口頭説明などで周知を図っている。転倒等のリスクについては、仕草や表情等を観察したり、行動の背景を考える等して早めに対応するようにしている。また、言葉による拘束についても気をつけるよう意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して、虐待に対する認識を高めながら防止に努めている。打撲痕や歩行不安定等の状態変化の早期発見に努め、家族と情報交換しながら虐待と疑われないような環境づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して制度に関する理解を深めながら、併設事業所と協力し、利用者が安心して施設を利用して頂けるように整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等に限らず、利用者からの不安や疑問には都度丁寧に説明し、理解を得られるようにしている。利用者の状態変化に応じて関係機関と調整を図り、迅速に対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、家族会と満足度アンケートを実施し、ニーズを拾うようにしている。アンケートは公表し、意見内容によっては検討をしながら、信頼関係につながるように努めている。	家族会は出席者の意向から、開催日時を調整しており、多くの出席を得ている。また、昼食会や運動会等の催しの機会を捉えて、意見を聞くように努めている。年2回実施するアンケートでは、コメントも多くいただき、意見を業務の見直しや改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回職員アンケートを実施し、可能な限り職場環境が改善されるように検討し実施している。個別での面談も行い、個々のモチベーション維持、向上に繋げている。	職員に対して、年2回のアンケートの実施や個別面談の機会を設ける等して、職員の意見聴取に努め、運営に関する様々な意見や要望を受け、対応している。また、親睦会を行うことで職員間の交流を深めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革の部分もあるため、計画的に有給休暇を取得できるようにしている。託児所も併設されているため、女性も働きやすい環境となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標設定シートをもとに、勉強会や研修を通して個々のスキルアップに努めている。資格取得のための支援体制も整備されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の資質向上のため、事業所以外での勉強会や研修にも参加し、相乗効果となるようにネットワークづくりを行っている。研修の受け入れも、積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	雰囲気作りを大切に、職員に話がしやすい環境を作れるように意識している。また、得た情報は職員間で情報共有し、安心して生活していただけるようにコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や面会時に都度家族の不安要素や要望を伺っている。話しやすい雰囲気を作ることで、良好な関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報を把握し、本人や家族からの話をもとに職員間で情報共有し、検討する中で必要な支援を考え、ニーズを見極めながら対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事や買い物を行い、話を傾聴しながら信頼関係を築けるように努めている。自尊心を大切に、本人らしさや生きがいを持って、楽しく笑って過ごせるように、職員間で情報共有をしながらケアを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活の様子をこまめに伝えるようにし、家族との共感を大切にしている。利用者と家族の関係を考慮しながら、思いを汲み取っていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族とも連携をしながら、利用者本人が生活してきた地域の行事に参加し、馴染みの方と会話をしたり、一緒に過ごせる時間を提供している。	地域への外出活動、近隣の清掃活動や運動会等への参加を通じて、地域との関係継続への支援に努めている。利用者の中には、以前の仕事仲間が訪ねて来られる方もある。	日常的なケアを通じて、利用者の馴染みの関係や大切にしてきたものを聞く等して把握に努めている。今後とも、面会や外出等での家族への働きかけ等、さらなる関係継続に向けた取り組みに期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や性格を考慮し、人間関係が円滑にいくよう食事席や入浴のタイミングに配慮している。個人の生活ペースを大切に、利用者同士の関係性を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は併設している特養に移られた方が多く、行事等で顔を合わせる機会があるため、対話等を通じて自然な関係が保たれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の意向を把握し、つぶやきとしても拾い上げながら、職員で情報共有をしている。時によっては家族にも協力を仰ぎながら、思いを実現できるように努めている。	食事の準備をはじめ、職員と利用者が一緒に行うことが多く、手伝っていただき、共に作業する事を通して、様々な会話を交わす機会を持っている。何気ない会話でもその人らしさのある言葉等を「つぶやき」として記録に残し、情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や家族からの情報を把握し、アセスメントに落とし込みながら、今までの生活スタイルができる限り継続していけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や希望を踏まえ、一人ひとりの1日の過ごし方に適した対応を行えるように努めている。今できる事にも目を向け、日々の状態観察にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が自立した日常生活を営めるように、また本人にとって心地良い生活が送れるように職員で検討している。アセスメントから現状に即した支援を見出し、介護計画に反映させている。	定期的にモニタリングを実施し、6か月ごとに介護計画を見直している。ニーズ・オリエンテッドな観点から、家族の意見を聞き、職員間でカンファレンスを開き、現状に即したプラン作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等に関しては職員で情報共有し、会議で検討しながら、よりよい支援方法を考え、介護計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに応じながら、本事業所での選択肢が限られた時には、併設事業所とも連携しながら、利用者にとって最善なサービスを受けることができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の趣味や生活歴を考慮して、町内行事や地域清掃への参加など、事業所のみならず活動の場を広げて頂くことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	それぞれの方にかかりつけ医があり、家族が受診を担っている。希望に応じて協力医療機関による往診手配も支援しており、受診前後の情報や結果は、家族と職員で共有している。	従前のかかりつけ医を利用している人、協力医療機関からの往診を利用している人様々で、従前からのかかりつけ医への受診については、家族に同行をお願いしている。利用者の状況について家族を通じて情報提供する等、医療との連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師が常駐していないが、介護士で判断できない場合の時には、併設している特養の看護師に連絡し、対応を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員やハウスマネージャーが中心となり、医療機関との調整を図っている。長期入院となる場合も、地域事業所と連携を図りながら退院時の受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人のグループホームでは重度化させず、終末期の対応は行っていないことを入居前に説明し、理解を得た上でサービスを利用して頂いている。日々の状態を観察している中で、普段と変わっていることがあれば、こまめに家族と情報を共有し、利用者に適した環境で生活できるように支援している。	入居時に、ターミナル期における看取り対応は行っていないことを説明し、理解していただいている。利用者が重度化した場合には、併設の特養入所についての希望を聞く等して、適切な対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応や事故に関するマニュアルや勉強会があり、日頃から意識を高めている。事故発生記録を会議で見直し、危険予測しながら再発予防に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画的に防災・防犯訓練を行い、非常事態に対する意識付けを行っている。訓練を通して利用者の行動パターンを把握し、ケースに応じた手段を発揮できるように意見交換を重ねている。	地震、火災、不審者に対する訓練を年4回実施し、夜間想定訓練や他施設と合同訓練等も実施している。備蓄は水やマジックライスその他、メニューに合わせた副食も準備している。また、停電に備え、自家用発電機器も整備している。	夜間の職員配置から、夜間の有事の際の対応には限界があると考えている。今後、隣接の夜勤職員と合同で対処できるよう具体的な役割分担、避難の手順について協議に向けた取り組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導や身だしなみに関する声かけについては他者の目や耳に触れぬよう、自尊心に配慮している。距離感には注意し、馴れ馴れしい言葉かけにならないよう対応をしている。	浴室に暖簾をかけたり、トイレでのプライバシーに配慮する等、尊厳を損ねないケアに心がけている。毎月、接遇やマナーのチェックを行い、声かけに気をつけている。法人のチェックリストによる自己評価を行い、助言・指導を受ける等して意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替え衣類や献立に関する希望など、自己決定し易い場面づくりを心がけている。会話の中で利用者の思いを拾い上げ、内に秘めた思いもすくい上げることができるよう情報共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを把握し、介護計画に落とし込みながら、できる限り今までの生活スタイルを継続して頂くことができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や髭剃りなど、これまでの習慣を大切にしながら支援している。本人の能力(認識力)を見極めて、家族に相談しながら必要物品を用意して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを把握し、楽しみとなるように献立を立てるようにしている。一人ひとりに合わせた準備や片づけの手伝いを依頼しており、協力していただけるように努めている。	利用者の好みに配慮した献立を作成している。利用者の能力や状況に応じて、職員と共に買い物に出かけたり、調理や配膳等を手伝ったりしている。食事の際には、職員や利用者同士で会話に花を咲かせながら、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの特性(嗜好やペース)を把握し、提供している。状態に応じて本人や家族に相談しながら、体重が増加傾向の方は盛り付け量に配慮したり、食欲減退の方はバナナやゼリーなどの捕食を用意して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じ、声かけや見守り、介助をしている。違和感や義歯の不具合などが生じた際には、歯科受診を勧めている。また希望に応じ、往診手配をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄をすることができるよう支援している。また、転倒リスクがある方はスリッパの向きに注意するなど、個々に応じた対応も行っている。	多くの利用者は紙パンツやパットを使用しているが、排泄チェックにより、パターンを把握し、できる限り、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の働きが活発になるような食材を献立に取り入れ、日常的な運動時間も設けている。水分量にも目を向け、好みの飲み物など意識的に飲むように工夫している。排便状態に応じてかかりつけ医に相談し、内服薬での調整も図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夕方からの入浴を基本とし、一人ひとりの希望や拘りに可能な限り応じながら、平等に入浴して頂けるようにタイミングを図っている。利用者同士の関係性にも配慮しながら、心地良く入って頂けるように整えている。	少しでも自宅での入浴時間に近づけるよう2日に1回、夕方に入浴支援を実施している。体調や本人の意向で入れない場合でも、翌日には入っていただけるよう工夫している。ゆず湯、しょうぶ湯等、入浴を楽しんでいただけるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者本人や家族の情報をもとに、入居前の生活を踏まえながら電灯の明るさや空調などを考慮し、環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の内容を理解・共有し、服用後の身体の変化を見逃さないようにしている。提供時には服薬マニュアルに沿って提供を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や生け花、調理、縫製など、一人ひとりのやりたい(できる)ことや得意なことを考え、居場所や役割を感じられるような毎日が過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者本人の希望や季節に応じ、定期的に個別や全員での外出機会を設けながら気分転換を図って頂いている。行きつけのスーパーなどの外出先では地域(知り合い)の方から声をかけられる場面もあり、馴染みの関係性ができている。	日常的に、天気の良い日には、職員とマンツーマンで中庭で散策している。食材の買い出しに利用者が交代で出かけたり、喫茶店に行ったりしている。また、家族との外出の他、施設行事等で出かける機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時には小遣いの取り扱いについて利用者に説明を行い、同意を得た上で一人ひとりの財布を金庫で保管し、希望された時に使用できるように支援している。小遣い帳(記録)をもとに、毎月の収支報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人の希望に応じて、電話や手紙の郵送手配を行っている。毎年家族宛に、全員の方が年賀状を書かれている。私信が届いた際には本人に手渡しし、家族にも報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を得られるような花を活け、清潔感を保つように努めている。一人ひとりの動線に注意しながら、灯りや音のメリハリにも留意し、利用者が寛いで生活して頂けるように環境を整えている。	法人全体の方針で部屋には生花を活け、利用者に楽しんでいただいている。季節ごとの花が柔らかな雰囲気を出している。共用の空間は整理されており、華美な貼り物もなく、広く、すっきり、清潔感がある空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格や利用者同士の相性を踏まえ、食事席やソファの配置を考慮している。利用者同士のトラブルにも注意しながら、一人ひとりの居場所を考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはカーテン、洗面台、天袋、エアコンが備わっている。それ以外にも、在宅時から使用していた家具や愛用している物、家族との写真などを持ち込んで頂き、本人にとって落ち着ける環境づくりを考えている。	居室は各自、家具等持ち込み自由となっており、その人らしさが感じられる。家族写真や馴染みのもの等、それぞれの生活スタイルが感じられる居室となっている。また、利用者の動線に配慮した配置を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部には手すりが設置されており、一人ひとりの特性を踏まえて、安全かつ動き易さを考えて家具を設置している。身体状況に応じて家族に相談しながら、履物の見直しをしている。		